

画像診断のはなし

低線量肺がんCT検診のご案内

日本人の肺がん死亡率は、男女合わせて第1位です（男性1位、女性2位）。肺がんの早期発見、早期治療が重要となり、低線量肺がんCT検診が注目されています。当院でも人間ドックのオプション検査として、低線量肺がんCT検査を行っています。

● ● 低線量CTってどんな検査？

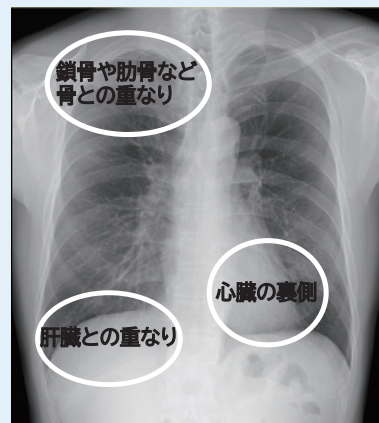
CT検査はより小さな病変を見つけることができますが、胸部CT検査は放射線被ばくの面から検診（健康な状態の人）には望ましくないとされています。このことを踏まえて、当院では放射線量を通常の胸部CT検査の約1/5～1/10程度の被曝線量で受けることのできる低線量CT検査を行っています。被曝線量を減らすため、通常のCT検査より照射線量を減らして撮影します。そのため通常のCT検査に比べて画質は劣りますが、肺野内の陰影の存在の有無は十分に判断可能であることが証明されています。また、CT装置やソフトウェアの進歩で低線量でも年々画質は向上しています。

● ● 胸部レントゲン検査だけではダメなの？

胸部レントゲン検査は、胸部にある臓器（主に肺・心臓・大動脈など）つまり呼吸器と循環器に異常がないかを調べる検査です。

しかし、胸部レントゲン検査で発見できる肺がんの大きさは、20～30mm以上とされています。この大きさでの肺がんの発見では5年生存率は20%と低くなってしまいます。

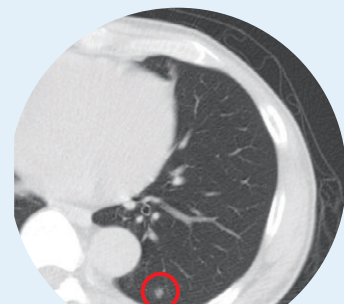
また、胸部レントゲン検査では心臓・肝臓・骨など重なり合う臓器により、肺内の小さな病変の指摘をすることが難しい場合があります。



● ● CT検査なら

微小の肺がんも発見できます。15mm未満の大きさでも発見が可能とされています。発見された肺がんの約90%は早期癌であり、他の臓器に転移する前の肺がんを発見することにより予後は良好です。

肺の断面像の画像なので、他の臓器との重なりがなく、胸部レントゲンでは指摘が難しい場所でも発見できます。撮影された画像は、まず撮影技師が確認し、その後2名の医師により読影及びチェックがされています。



● ● 検査方法

- ①撮影台に仰向けに寝ていただき、両手を頭の上に挙げていただきます。
- ②C T装置からの息止め合図に合わせて数回、息を止めていただきます。
(約5~10秒)
- ③検査終了です。



以上のように短時間で終了する、ストレスの少ない検査です。

また、検査前の飲食・内服の制限や前処置等ありません。

服装も胸部に金属の付いていないものでしたら、そのまま大丈夫です。

● ●ただ、いいことばかりでは・・・

検診で異常が見つかったとしても、結果的に肺がんでないこともあります。発見された異常の確定診断をつけるために、気管支鏡検査や経皮的針生検、場合によっては外科的手術のもとで行う胸腔鏡生検などの侵襲性の高い追加検査が必要となることがあります（身体的負担）。

また、定期的な経過観察の必要性も発生することもあります（経済的負担）。

● ●その他こんな病気も・・・

肺がん以外の病気（肺気腫、肺炎、気管支拡張症など）や、肺以外の病気（胸部大動脈瘤、心臓や大動脈の石灰化、胆石など）も発見できることもあります。

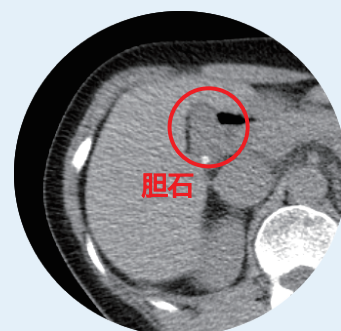
低線量で撮影しているため、後日、二次検査（精密検査）として通常の

C T検査（造影C T検査の場合もあり）を受けていただくことがあります。

※肺以外の病変は、画質の面から病変があったとしても指摘できない場合も有ります。



冠動脈の石灰化



胆石

当院には「肺がんC T検診認定機構」の認定を受けた「肺がんC T検診認定医師および認定技師」が在籍していますので、安心して検診をお受けください。



診療放射線科
主任
池田 史彦